

## 令和7年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	川島滋和

※これまでの改善の実行状況があれば、その内容も含めて記載してください。

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	事後学修における課題の分量と学修効果のバランス
①	理 由	English Gateway I では、Xreading の多読を課題として課してきたが、学生から負担が大きいとの意見が多々あったため、読む分量を減らしたところ TOEIC の平均点が下がってしまった。
②	課 題	「継続」本質的な理解よりも暗記や生成 AI に頼る勉強方法
②	理 由	教員は学生の理解が深まるように講義をしているが、理解できないと、そのまま暗記したり、生成 AI から回答を得ようとする学生が散見される。テスト対策のために学んでおり、本質的な学びにはなっていない。
③	課 題	「継続」授業改善計画の提出率は75%となっており、前回（令和6年後期）よりも6ポイント下がっている。授業評価を検証していない科目がある。
③	理 由	担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	学生の取り組み状況をみながら、学生の実態に即した課題を設定する必要がある。それと並行して、Xreading での課題を通じて、英文が速く読めるようになったり、機械翻訳に頼らなくても英文が理解できるようになったりと、学ぶの成果を学生に感じてもらっても同様に重要である。AI や機械翻訳が急速に広まる中で、社会や就職活動において、英語学習の成果がどのように活かせるのか、課題の目的と期待される効果を合わせて説明していきたい。
②	期末試験やレポート課題においては断片的な知識を問うのではなく、学んだことを統合化したり、学生の経験や学んだことを表現できるように、試験問題やレポート課題での「問い」を改善していく必要がある。つまり、暗記や生成 AI では対応できないような試験、レポート課題を増やすとともに、教科書や資料の持ち込みを可とする試験を増やしていく必要がある。また、「生物概論」で実施しているように毎回確認テストを行い、短期的な暗記ではなく、長期的な知識の定着を図ることも重要である。
③	群長および副群長より、未提出科目の責任教員に授業改善計画の目的を説明し、提出を指示する。また、スタートアップセミナーについては、学群ごとに授業評価結果を共有し、授業改善計画に反映できるような仕組みを検討する。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

「生物概論」では、授業の度に確認テストを行っている。確認テストは、初めは何回でも受けられるようになっており、高校で生物を履修していない学生やたまたま授業を休んだ学生でも、自分で復習ができるようになってきている。復習をせずに試験だけを受けている学生と復習しながら毎回試験を受けている学生とでは、到達度に大きな差が生まれている。このことを履修学生に周知し、確認テストを受けることを奨励している。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

AI が急速に普及する中で、効果的なテスト（小テストを含む）の在り方や頻度等を教員間で議論し、より効果的な教育方法を模索していく。

## 令和7年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	菅原よしえ

**※これまでの改善の実行状況があれば、その内容も含めて記載してください。**

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	【継続】 週当たりの授業外の学習（課題レポート・予習・復習など）の時間は1時間台の科目が多い。
①	理 由	看護学群の前期科目の授業外学習時間は、令和6年度平均1.5時間から令和7年度1.2時間に減少した。1～3年次生の学年ごとの必修科目は前期のみで約20単位である。必修科目が多いことにより事前事後学修時間を確保しにくい状況がある。
②	課 題	学生からの授業評価では、教材の適切さや分かりやすさの評価が低値であった科目の改善がみられた。学生にあわせて教材の検討の工夫は引き続き必要である。
②	理 由	R6年の授業評価で、教材の適切さや分かりやすさの評価が低値であった科目（病態学、学校保健論、保健福祉行政論等）において、授業改善が図られた。引き続き、学生の学習を促進する教材や授業の工夫は、継続が必要である。
③	課 題	授業内に意見や要望がほとんどなく、授業終了後の授業評価アンケートで要望が出されている。
③	理 由	授業終了後の授業評価において、授業への意見や要望の記載があり、授業改善計画において、教員が学生の意見に回答する形になっているが、教員からは授業進行の中で、レスポンスカード等で学生の意見等を尋ねているため、適宜意見や要望を伝えてほしいとの回答になっている。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	前期の講義科目は、後期の実習科目と連動しており、年間を通じ、実習を含めた事前事後学修の状況を把握する必要がある。「看護学教育モデルコアカリキュラム（令和6年度改訂版）」を参考に、カリキュラムの点検と改編に取り組む。
②	引き続き、毎年度の授業評価のアンケートを活用して、改善に取り組む。
③	科目運営において、授業進行中の期間で、学生の意見や要望を適宜、収集する必要を、教員に周知する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

選択科目「リハビリテーション看護論」において、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重なり、学生の満足度および学習到達度も高かった。少人数授業であり、担当教員、ゲスト講師と学生一人一人の距離感が近く、意見交換できる環境であること、臨地実習に役立つことを実感できる授業であり、効果的であった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

看護学群教員全員にメール配信および教授会にて共有し、各教員の授業計画や授業改善に活用する。

## 令和7年度前期 学群教育改善計画

<b>学 群 名</b>	事業構想学群
<b>学 群 長 名</b>	蒔苗 耕司

※これまでの改善の実行状況があれば、その内容も含めて記載してください。

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	「継続」昨年度から継続した課題であるが、前任者の科目を専任教員が科目責任教員として引き継ぎ実施するケースが多かったことから、教育の質保証および授業内容の継続性が懸念された。
	理 由	教員の定年退職や異動に伴い採用人事が進められており、適宜専任教員が配置されつつあるが、教員定数を充足していない分野も存在している。そのため、科目特性に応じて適任の非常勤講師を任用することで開講はされているが、シラバス内容が的確に引き継がれ、科目の特性を理解した開講がなされているか危惧された。
②	課 題	「継続」全体的に講義系の科目において学生の事前・事後学習に費やす時間が少ない傾向にあり、かつ科目による事前・事後学習における差が顕著であることが挙げられる。
	理 由	講義系科目においては、授業時間外学習として予習や復習として課題レポートを課す科目が多い中、科目に応じて難易度や頻度など異なることから、授業時間外学習に費やす時間が低い傾向にあることが考えられる。
③	課 題	「継続」インフルエンザや新型コロナウイルスの流行、異常気象に見舞われている中、講義形態は対面方式だけでなく遠隔やオンデマンド方式などさまざまな教授法が存在することから、科目の特性や内容に応じて効果的な講義形態の検討や選択、合理化を図る必要がある。
	理 由	対面講義が定着している中、大和キャンパスの立地特性により天候や時期によって交通麻痺や混雑による遅延といった通学環境の悪化時における対応とともに、さまざまな教授法の併用により学習の深化が期待される。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	科目の特性に応じて最適な非常勤講師の任用に務めるとともに、科目の特性を十分に踏まえ事前に科目責任教員と非常勤講師との間でシラバスに基づいた綿密な打ち合わせを行った上で開講するように尽力してきた。また、科目責任教員は適宜非常勤講師からの相談に加え、学生からの質問・問い合わせにも迅速に対応することで、非常勤講師の担当科目において学修効果の低下に繋がることがないよう密な連携のもと実施することで対応してきた。
②	授業時間外学習時間の経年変化をみると増加傾向にあるが、費やす時間が少ない状況にあることに変わりはなく授業時間外学習（事前予習・事後復習）の設定方法については各教員が適宜工夫・改善を行ってきた。引き続き効果的な教授法を模索する必要があり、学習内容の定着度向上に向けて、対面授業に加えて反転学習を取り入れた科目運営の必要性も高まっている。上記の学習方法を積極的に取り入れ、高品質で効果的な学修者本位に資する教育活動に注力していきたい。
③	今年度前期では、オンライン授業のコンテンツと教科書教材の併用することで、履修学生の理解度について良好な結果が得られている科目が存在する。対面講義、オンライン講義、オンデマンド講義を併用することで、気象状況や学生の体調、事情に合わせて、在宅あるいはキャンパス以外の環境でも受講することができ、学習効果の維持・向上に資する科目運営や学びの充実を図っている。今後、科目の特性に応じた適切な教授法を模索し続けることで、大和キャンパス立地が学生にとって不利にならず、かつ有効に活用できるよう検討していきたい。

2-①(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

ウェブデザイン（長崎智宏先生）デザインの最先端ともいえる分野について講義としてどのように教授するかといった課題に対して、社会でのウェブの位置づけや利用者といった観点について学生自身が考えて実装するといった実践的な要素を取り入れている。また、予習課題とそのフィードバックを理解度の把握に活用し、履修者に対して複数回のプレゼンテーションの機会を設け学生同士が相互評価を行うことで受講生のモチベーションを維持しつつ、実践的なスキルを教授している。

2-①(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

科目の特性上適切な教授法は異なるが、実社会において貢献できる人材育成や実学を取り入れた教育が求められている現状をふまえ、事前・事後学習を活用し学生が自ら考え解答を導き出す行為を取り入れるなど教授法の充実に注力していきたい。

## 令和7年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

**※これまでの改善の実行状況があれば、その内容も含めて記載してください。**

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	「継続」今後の大学教育において、AI の精緻化が進む中で将来の社会で活躍できる人材をどのように教育するかを考慮した授業の組み立て。
①	理 由	教育全般においてAI の活用に関する議論が不十分と思われること。
②	課 題	難易度が高く、授業の到達目標に対する到達度が低い科目がみられる。
②	理 由	授業内容の難易度、教材あるいは授業の方法が学生の理解に結びついていない。
③	課 題	「継続」週当たりの授業外の学習時間について、科目間のばらつきが大きい。
③	理 由	事前・事後学修、レポートなどの課題の量が適切に設定されていない可能性がある。学修行動調査からも授業に関する勉強時間の減少は認められる。科目履修時に要する学修時間は、履修科目選択にも影響を与えるため、学生に各科目の学びの意義を理解させる必要がある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	物事に対する自己の思考や興味を深めるためにはある程度の知識の蓄積が必要であり、その前提に立ってAI が提供できることや人間がすべきこと、学生が学ぶべきことなどを整理しながら授業内容を組み立ててゆく必要がある。また、AI によるレポートの作成やそれに対する評価方法を明示したシラバスの作成などを議論する必要がある。
②	学類の学びの体系における当該科目の位置づけを再確認する。担当教員に対し、到達目標の妥当性をはじめ、授業内容の難易度、進度および授業方法の再検討を促す。
③	授業形態や専門分野に適した授業外学習を設定し、着実な実施を促す。また、日々の学修の成果や理解度を実感できるような確認テストや課題の設定等の授業改善を学修方法の工夫について、学生が意欲を持って主体的に学修できるように、教員間で共有して改善につなげる。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

栄養科学は身近な食生活や健康に関わる内容であることから、毎回の「振り返り」で興味深い質問・意見が多く、それらに対する回答・コメントを次の講義資料に掲載し、一部は口頭でも解説することで充実した内容となり、履修学生からも好評であった。また、「振り返り」で効果的に復習できることが「授業に関して良かった点」として挙げられた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

食産業学群の開講科目は、日常生活や健康と関連付けられる分野が多く、専門的でありながら取り組みやすい身近な学問分野でもある。日々の食生活から食産業学という学問分野へ視野を広げ、進路への意識と学ぶ意義の理解を深めて学生の主体的な学びにつなげられるよう、授業改善の好例をFD等で共有できるようにしたい。